川崎医科大学　数理・データサイエンス・AI教育プログラム
2023年度自己点検報告書

数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会
神田　栄一郎

自己点検・評価項目	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取り組み	備考
プログラムの履修・修得状況	○	本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムは、ほぼ必修科目で構成されている。そのため、3年生終了時には全員がプログラムを履修する。2023年度末までに約260名（33%）が受講開始した。毎年およそ15%ずつ増加する予定である。	毎年、全1年生が新しく受講するため、履修率は毎年増加する。このまま継続する。	
学修成果	○	いずれの科目も十分な学修成果が認められた。	実習や課題などを取り入れることにより、生徒が受け身ではなく体験できるように工夫している。	
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○	いずれの科目も、学生は概ね、「科目の内容を理解できた。」と考えられる。	オフィスソフトの使い方やタッチタイピングなど、社会で不可欠な実習が行われている。体験を通して理解が深まっている。	
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○	いずれの科目も、授業評価アンケート項目の「科目の内容は価値ある内容であった。」と「私はこの科目の学習に真剣に取り組んだ。」では、高評価であり、推奨度は高いと評価される。	いずれも必修科目のため、学生間での推奨自体は行われていないが、授業評価アンケートの結果から満足度は高いと考えられる。	
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	本プログラムの授業はいずれも必修科目であり、全ての学生が履修できるようになっている。	積極的な学修を促すため、授業の内容や連関をシラバスなどで周知している。	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	△	本プログラムは開設2年目であり、最初の修了生が本学を卒業するのは2027年度末になる。	最初の修了生が卒業後に、アンケートなどの追跡調査を検討する。	
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	いずれの科目も、学生が将来医師になることを考慮した内容となっている。また、プレゼンや電子カルテ入力など、卒業後にも有用な技術を、体験できるよう工夫されている。	データサイエンスを教える教材も医学に関係したものが中心となっており、授業の意義が分かりやすくなっている。	
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	現在のデータから、将来の人口やそれに関係した年金など社会的な問題について、新しい視点を与えている。また、AIの実例を見せたり、プログラミングを体験させるなど、知識だけでなく体験させている。	授業方法として、座学だけでなく、プログラミング実習など、体験型の授業を積極的に取り入れている。	
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	○	講義中の双方向議論を取り入れた。また、プログラムや資料として最新のものを準備して、配布している。	最新の情報に基づいたスライドやテキストが活用されている。また、体験型の授業でも、理解しやすい資料が準備されている。	